2013年11月26日
第2回 MIGA ランチタイムセミナー

【議事概要】主役なき世界と日本の選択

講師：岡部　直明
国際総合研究所フェロー/日経客員コラムニスト

特定秘密主義法案の採決や中国による防空識別圏設定といった、日本に大きな選択を迫るホットなテーマが浮上している。冷戦後に鮮明となった“アメリカの時代”はEUやユーロの展開などから失速し、イラク戦争とリーマンショックを経て決定的となる。その後の世界経済の救世主であった中国はじめ新興国の成長にもかげりが見え始め、世界は新たな危機の連鎖を呼ぶ恐れをはらんでいる。「日本経済新聞」の経済記者として、国際政治を見すえた幅広い理解を目標に記事を書かれてきた岡部直明先生に、「主役なき世界」と呼ぶにふさわしい大空位時代を迎えた米欧中の課題、そして日本の役割を語っていただいた。

●アメリカ—太平洋国家へのリバランシング

アメリカの指導力低下の後遺症にオバマは苦しみつつも、シリアやイランの核問題では賢い選択をした。問題の一つは債務上限問題であり、その背景にはネジレ議会に代表される政治システムがあり、価値多様化の時代における二党体制がある。もう一つはオバマケアが生む軋轢である。オバマのテーマは世界の警察からアジア太平洋国家へのリバランシングである。かつての圧倒的力は失ったものの、アメリカの相対的なナンバー1 は続くだろう。

●欧州—緊縮政策から成長戦略へのシフト

二度と戦争を起こさないための組織や仕組みが EU やユーロであり、イギリスのエコノミストが予測したユーロ崩壊は起こらないだろう。欧州の最大の問題は、ひとり勝ちのドイツと、若年失業率 50%とも言われるスペインなど南欧諸国との格差である。ユーロ再生にはドイツ流緊縮政策だけではなく、成長戦略へのシフトが求められる。また、EU に留まるかを問う国民投票を控えたイギリスだが、離脱はありえない。一方、バルカン諸国の EU 加盟は進むが、キリスト教を基とした文明共同体であるEUへのトルコ加盟は困難だろう。欧州統合の父ジャン・モネは「EU とは国と国ではなく、人と人とを結びつける」と語った。欧州を見くびってはいけない。

●中国—海洋進出よりも国内政策へ

今後はGDP2ケタ成長からの屈折は避けられないが、“リコノミクス”は理想的であろう。貧富の格差、環境汚染等の課題が中国にはあり、ネット規制を強化しても不安は高まる。また海洋進出は中国を孤立させる。中国は国内へ焦点を当てるべきだろう。

●日本—経済による再生とアジア太平洋地域への貢献

軍事による強国化はあり得ず、経済力による貢献からアジアと共にいかに発展していくかが日本の課題となる。TPPとRCEP（東アジア地域包括経済連携）のセットによるアジア太平洋の成長が平和戦略となる。日本はその結合役となってはどうか。アベノミクスへの期待は大きいが、外交安全保障を重視しすぎであり、経済を中心とした日本再生を目指すべきではないか。

MIGA 明治大学国際総合研究所

MIGA
Meiji Institute for Global Affairs